

Ⅱ 意見募集実施の概要

1 意見募集期間

平成20年3月31日(月)から平成20年4月30日(水)まで

2 提出された意見総数

236件

●年齢構成

区 分	提出件数(件)	構成比(%)
小学生	6	2.5
20歳代	11	4.7
30歳代	91	38.6
40歳代	75	31.8
50歳代	18	7.6
60歳以上	10	4.2
不 明	25	10.6
合 計	236	100.0

3 提出意見の内訳

区 分	意見件数(件)	構成比(%)
1 プラン(案)全般に関する意見	73	30.9
2 児童会館・ミニ児童会館児童クラブに関する意見	102	43.2
3 民間児童育成会に関する意見	55	23.3
4 1～3以外の意見	6	2.6
合 計	236	100.0

4 主な意見とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	札幌市の考え方
1 プラン(案)全般に関する意見	
<p>留守家庭児童と一般利用の子を一体化すること自体が差別ではないか。放課後児童クラブが既にある地域には、ミニ児童会館整備を急ぐべきではない。</p> <p>共同学童保育所をつぶすようなミニ児童会館開設には疑問を持つ。</p> <p>ただ児童会館やミニ児童会館を増やせば良いのか。空間を作るためだけにお金は使わないでほしい。</p> <p>市内には、児童会館やミニ児童会館がまだまだ必要、プランを大いに進めるべき。</p> <p>放課後の居場所があることは、働く親にとってありがたい。学校内・徒歩圏内にあることも良いことだ。</p> <p>プラン(案)は留守家庭でない子どもも対象にしておりすばらしい。是非すべての案を実施してもらいたい。</p> <p>プランの主旨に賛同する。留守家庭では、帰宅後に学習させるのは難しく、少しでも学習時間を持たせたい。</p>	<p>本市の総合的な放課後対策では、児童クラブの子どもを区別せず、一般利用の子どもとの積極的な交流を通して、健全育成を図ることを基本としている。</p> <p>子どもたちの安全で安心な放課後の居場所として、ミニ児童会館は非常に有効と考えており、すべての児童の放課後の居場所を考える上で、民間児童育成会(学童保育所)が既にある地域にも、必要性が高いと判断した場合は、ミニ児童会館を整備する。</p> <p>今後益々、児童会館が子どもたちにとって居心地の良い場となるよう、学校や家庭、地域との連携を図りながら、学習支援の充実も含め事業の推進に努める。</p>
2 児童会館・ミニ児童会館児童クラブに関する意見	
<p>放課後安心して預けられる施設があり感謝している。今後も安全に過ごせる児童会館であることを望む。</p> <p>児童会館が利用しづらい地域にもミニ児童会館が整備されると良いと思う。</p> <p>児童会館では、留守家庭の子と一般来館の子が交流でき、有意義に過ごす場として大切な居場所である。</p> <p>児童クラブの対象学年の拡大・時間延長を望む。</p>	<p>児童会館やミニ児童会館のない校区、児童会館があっても遠くて利用しづらい校区について、優先順位に照らしながら順次ミニ児童会館を整備していく。</p> <p>対象学年の拡大・時間延長については、他に優先課題があること、施設の充実及び指導員の確保の必要性が生じること、放課後における子どもの過ごし方を勘案すると、現状の対象学年・開館時間が適当と判断している。</p>
3 民間児童育成会に関する意見	
<p>留守家庭の子と一般来館の子は、全く条件が違うので、一緒にできないことをわかってほしい。</p> <p>民間児童育成会への助成金を減らさないでほしい。</p> <p>民間児童育成会への助成金を充実させてほしい。</p> <p>働く親にとってプランは必要だが、質のよい保育体制が整っている民間学童保育にも同様のお金をかけることが必要だ。</p>	<p>民間児童育成会については、本市の放課後事業健全育成事業において、一定の役割を果たしていることから、助成により支援を行っている。市を取り巻く財政状況が厳しい中、助成金については、今後も適正かつ安定して継続することができるよう努める。</p>